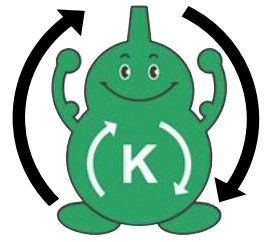


ごみジャーナル

No.54

発行／ごみ問題を考える草津市民会議

編集／広報委員会



フルリーナちゃん
(ごみ問題のキャラクター)

令和6年
10月20日(日)

市制施行70周年記念事業 エコライフフェア草津2024を開催!

リユース マーケット



18組の出店で大賑わい!

おもちゃの 0円マーケット



こどもから大人まで大人気!

リユース家具 抽選会



リユース家具を抽選でお譲りしました!

ごみ量体験コーナー



もったいない フードロス何キロ?

風呂敷活用講座



日本の伝統文化・風呂敷の活用を
学びました!

牛乳パックを使った工作



牛乳パックを使って
楽しく工作しました!

ランドセルの譲渡会



リユースランドセルを無料で
お譲りしました!

キラリエ草津で開催

- いろいろ勉強になり、楽しかった。
- ごみについて考えるきっかけになった。
- こどもを中心に参加できてよかった。

(参加者の声)

草津市のごみの歩み



市制施行70周年を記念し、草津市の
ごみの歩みをまとめた年表を
作成しました!

詳細は「さくらや 草津」で検索

ポイ捨て防止市民行動の日を実施しました！

令和6年5月26日(日)にエイスクエアで、ポイ捨て防止と地域における美観保持の意識の向上を目的に啓発活動を行いました。

活動では、「まちの環境美化にご協力ください」、「ポイ捨て防止にご協力ください」と声をかけながら、啓発物品を配布し、多くの方にポイ捨て防止や環境保全への意識を高めていただきました。

今回の活動を通じて、市民の皆さまと一緒に取り組む環境美化の大切さを実感することができました。今後も美しい環境を守り、次の世代に誇れるまちをつくるため、市民一人ひとりの協力を呼びかけていきます。



宿場まつり・地域ふれあいまつりに参加しました！

令和6年度も草津市で開催される様々なイベントに参加し、啓発活動を行いました。

令和6年4月には「宿場まつり」に、10月から11月にかけては「地域のふれあいまつり」に参加しました。

来場者には、ごみ問題に関するクイズに挑戦いただき、子どもから大人まで楽しくごみ問題について理解を深めていただきました。



実際に出题したクイズに挑戦！

Q. 国民一人あたり、毎日どれくらいの食べ物が捨てられているのでしょうか？

1. スプーン1杯分 2. コップ1杯分 3. お茶碗1杯分 4. バケツ1杯分

正解は最終ページへ！

市内散在性ごみ一斉清掃

令和6年度も各町内や各種団体のご協力のもと、11月24日(日)を中心に市内散在性ごみ一斉清掃を実施しました。

市内14カ所の小学校に設けた回収拠点にごみが集められ、ごみの総重量4,910kgで参加者は約12,600人でした。

ご協力ありがとうございました。

空き缶、空きびんやペットボトルのほか、金属棒、タイヤのホイールカバー、鉄板の蓋や陶器等々不法投棄と思われるものが出てきました。

住みやすく、安全なまちをつくって行くためにも、日頃から市民のみなさんと気をつけていきたいものです。



ごみ問題を考えるセミナー2024

令和6年10月19日実施

元モーグルスキー
オリンピック選手
「伊藤みきさん」を
ご招待！

今回は、昨年度もご登壇いただいた同志社大学の原田先生と協議した結果、前回の参加者の傾向から、幅広い世代に、楽しく、分かりやすく、ごみ問題を含めた環境問題を学び、考えるきっかけをつくるためのセミナーにすることとなりました。そこで、元モーグルスキーオリンピック選手で現在マザーレイクゴールズ(※)広報大使の伊藤みきさん、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの佐藤祐一専門研究員、そしてしがローカルSDGs研究会とプラごみ研究会「Rキッズ」の参加が実現しました。

セミナーは、原田先生と伊藤みきさんの対談から始まり、佐藤氏のコメント、Rキッズの発表、そして参加者からの質問を受けてのフリートークという大変盛りだくさんの内容となりました。伊藤さんからは、スキーのワックスや防水スプレーにもフッ素が含まれている現実や、オリンピック選手村の食堂でのカトラリはほとんどプラスチックは見かけない等、今後日本でもできることへの提言もありました。

また佐藤氏からは、スポーツと環境問題は実は繋がっていて、スポーツは環境問題の加害者でもあり、被害者でもあると指摘があり、今後はスポーツから環境問題を変えていけるという提唱がありました。

次のRキッズの発表では、被覆肥料という、プラスチックでコーティングされた肥料を現在7割以上の農家が使用しており、多くのマイクロプラスチックを排出している現状を知ることとなり、皆驚愕しました。

そして、フリートークではリユース食器の利用促進の提案や、プラスチックごみの最大の輸出国は日本であること等の指摘がされました。

日頃より、地球温暖化防止の一步になる些細なことからの行動の励行、Rキッズの素朴な疑問・問題意識に今後も着目し、実直に回答できる大人になれるよう、啓発・啓蒙に努め、更なる知見を深めなければならないという、新たな気持ちを共有してセミナーは終了しました。

※マザーレイクゴールズ：琵琶湖を切り口とした2030年の持続可能社会の実現を目指す目標(ゴール)です。琵琶湖版のSDGsとも呼ばれ、琵琶湖を愛する人々の「びわ湖との約束」から生まれました。令和3年7月1日(「びわ湖の日」40周年記念日)に策定されました。



ご講演いただいた講師の皆さま



マザーレイクゴールズ広報大使
伊藤みきさん



同志社大学経済学部公共経済学
(環境政策・地域政策)
原田慎夫准教授



滋賀県琵琶湖環境科学
研究センター
佐藤祐一専門研究員



プラごみ研究会「Rキッズ」の皆さん



全員で集合写真！

ゼロ・ウェイストを考える サークュラーエコノミーの実現に向けて ～ポール・コネット博士来日フォーラムに参加して～

～ごみ焼却大国からの脱却～

日本には、世界にある焼却炉の数の半分に当たる1千基以上の焼却炉があると言われ、温室効果ガス排出量が世界全体の3.2%を占め、OECD(経済協力開発機構)の2年前のデータでは、日本のごみの焼却率は8割で加盟38ヶ国で1位となっています。

その中で、ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)を目指す国内自治体は、ゼロ・ウェイストを宣言した、45分別で知られる徳島県上勝町など5自治体(※)に過ぎないのが現状です。

ごみの焼却は、少なければ少ないほど環境への負荷は小さくなります。

今後のごみ焼却の対応策としては、堆肥(コンポスト)へのシフトが最善策と指摘され、50%から80%ものごみが減量となる数値も出ているとのことでした。埋め立ても焼却も持続可能な解決策ではありません。食品残渣を堆肥化することで、化成肥料の必要性も減り、堆肥は土壌を改善し、炭素・水・栄養素を保持します。生ごみの堆肥化は循環経済への移行への一手段となりうるのです。

(※)他に、熊本県水俣市、福岡県大木町・みやま市、奈良県斑鳩町がある。

段ボールコンポスト堆肥で野菜作りに挑戦しています

段ボールコンポストとは、段ボール箱を利用した生ごみ処理容器です。ベランダや屋内で気軽に取り組むことができます。

平成27年(2015年)からごみ問題を考える草津市民会議で販売を開始しました！



段ボールコンポストの詳細はこちら！



山田ねずみ大根の 袋栽培に挑戦

使ってみた感想

土とコンポスト堆肥を3:1の割合で混ぜて袋に入れ、袋の下に水抜き穴を数か所あけ、じょうろでたっぷりと水をかけます。土の表面7～8か所に穴をあけ、種を2粒ずつまき、土をかぶせます。

1週間ごとに1回追肥し、適時、間引きながら2本に仕立てます。日当たりの良い場所に置くのが理想です。写真は1か月目と3か月目の様子です。およそ70日で収穫できます。



1か月目



3か月目

高穂中学校の生徒さんにコンポスト作りを体験してもらいました！

高穂中学校で段ボールコンポストの使い方、活用方法などについて講演を行いました！

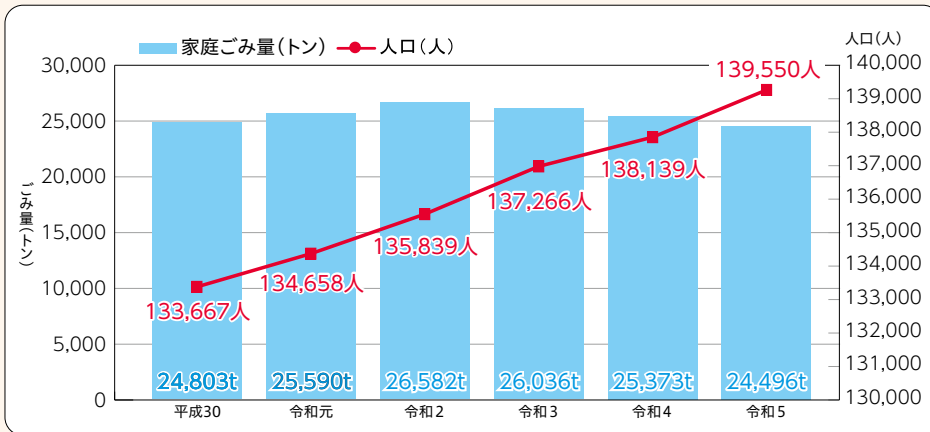
(以下、高穂中学校からのコメント)

高穂中学校では、総合的な学習の時間「たかほ学」を通じて、学年ごとにテーマを設定し、3年生は「社会参加学習」として平和、文化、観光、防災、交通、自然、農業などの分野で学んでいます。2学期からは自然分野と農業分野が協力し、「草津市の自然と農業に還元するためにできること」をテーマに、段ボールコンポストを使った肥料作りを開始しました。開始にあたり、ごみ問題を考える草津市民会議の方々を招き、コンポスト作りの方法や注意点を学びました。

給食の残飯を活用して食品ロス削減を目指し、発酵しやすい食材を観察しながら進めています。完成した肥料は学校や地域の農家に提供したい、身近な人にあげたいなどのアイデアが出ており、全員でその結果を楽しみにしています。



草津市の家庭ごみの状況



※人口は、各年10月1日現在の行政区内人口

草津市は、人口が増加しているなか、家庭系ごみの量は令和2年度をピークに減少傾向にあります。

まちの賑わいと、環境負荷の低減を両立するため、ごみの排出量を抑えましょう。

食品ロスを減らすため、フードドライブをご利用ください！詳細は市のホームページをご覧ください。



ごみ分別動画

ごみの分別方法やコツについて映像で解説しています。

ごみ種ごとに2分程度の短編動画が13編あります。

ぜひご覧ください。



ごみ分別アプリ

収集日のアラーム通知やごみ分別辞典などお役立ち情報が満載です。

ぜひダウンロードしご利用ください。



さんあ〜る



ごみ分別のお困りごとを解決！ 分別アプリ検索ランキング！

1位 段ボール

分別:古紙類

ポイント:

紙ひもやビニールひもで十字にしばって「古紙類」で出してください。



2位 電球(白熱球)

分別:陶器・ガラス類

ポイント:

LEDは「破碎ごみ類」で出してください。



3位 電池(コイン電池・ボタン電池・小型充電式電池)

コイン電池(型番:CR、BR):「破碎ごみ類」で出してください。

ボタン電池(型番:SR、LR、PR):回収協力店で出してください。

小型充電式電池:回収協力店で出してください。



破損、水漏れや膨張等の異常があるバッテリーなど、出し方の詳細はこちら！➡

そのほか、気になる分別

「焼却ごみ類」のうち、袋に入れずにひもでくくって出せるものは、剪定した枝木のみです。1本を長さ50cm以下、直径5cm以下にして出してください。(新聞でくるむ場合は、全体を覆わず、剪定した枝木が見えるようにしてください。)葉がついているものも収集しますが、ごみ集積所に散乱しないよう注意してください。



詳しくはこちら



こどもたちの手で不法投棄禁止看板を作成していただきました！

今年度、「ごみ問題を考える草津市民会議」では、志津学区のこどもたちと協働し、ごみの不法投棄を無くするための取り組みを行いました。

志津学区の小中学生が中心となって活動する「志津わんぱく協働合校」のみなさんが考えた不法投棄防止を呼びかけるオリジナル看板を作成しました。

完成した看板は、こどもたち自身の手で、不法投棄が多い場所に設置予定です。こどもたちの発想力と行動力が地域の環境美化意識の向上につながり、不法投棄ゼロのまちづくりに貢献することを願っています。

この取り組みを通じて、次世代を担うこどもたちとの連携の重要性を改めて実感しました。

これからも地域の課題解決に向けた活動を続けていきます。



会員募集

ごみ問題を考える草津市民会議では、ごみ問題に関心があり、ごみ問題解決のための啓発活動やイベント等に参加できる方を募集しています。



対象 草津市に在住、または通勤、通学している方

申込方法 住所、氏名、電話番号、メールアドレス(お勤めの方は勤務先)を下記の問合せ先までご連絡ください。

一緒に草津市のごみ問題の解決に向けて取り組みませんか？



編集後記

ごみジャーナルは令和5年2月の「No.52号」から年2回発行を年1回とし、3年目を迎えます。年1回の発行により、情報量は増え、みなさんに伝えたい案件も増えています。そんな中、市民の皆さんにはどうしたら「ごみジャーナル」をよく読んでいただけるか、多くの情報の中から厳選し、記事にしてみました。

特に近年、地球温暖化による異常気象をはじめとする環境問題は地球規模で進行しており、関連記事も増えています。

こどもや孫により良い地球を残していくためにも、今我々は何をなすべきかを考えた行動を身の回りから始めましょう。

ごみジャーナルにはその情報が満載です。是非よく読んで参考にしてください。

ご意見をお待ちしています。

ごみジャーナルNo.54についてのご意見、ご感想をお気軽に下記までお寄せください。

〒525-0043

滋賀県草津市馬場町1200番地25(草津市立クリーンセンター内)

「ごみ問題を考える草津市民会議」広報委員会

TEL:077-562-6361 FAX:077-566-1694

E-mail:shigen@city.kusatsu.lg.jp

問合せ先

広報委員

松村 幸子・木村 兼久
富山 康夫・油布 輝義
竹田 龍弘・山口 尚孝
福井 稔剛・林 和臣